

○ 6月9日(木)

## 府立学校スクールミーティング(府立朱雀高等学校)

---

### ○ 冷泉 委員



いろいろな意味で衝撃的でしたが、素顔のままの高校生の日常が見られたように思います。

生徒たちは自主性ということと自由ということを学校生活の基本と考えているようで、そのことは大変優れたことですが、自由ということと無規則ということは異なることだと思います。授業中に寝ていても良いというのは自由ではありません。単に怠惰だけです。その一方で、学校にも、生徒が授業に集中できるように習熟度別のクラスにするなど工夫できることがいろいろあると思いました。

また、短い時間でしたが、保護者の方や地域の方などと率直な意見を交わすことができ、大変有意義でした。

朱雀高校の改革発展のため、教育委員の一人として力を寄せたいと思っています。

---

### ○ 平塚 委員



今回は、明治37年に京都府立第二高等女学校として発足し、112年を迎えた歴史ある学校に伺いました。

朱雀高校は、全日制・定時制・通信制の3課程が設けられ、年齢も15歳から成人まで在籍しているためか、“生徒の自由を尊重”されています。制服はなく服装や頭髪の色等も自由としているようですが、中には高校生に相応しくない服装や容姿の生徒も見受けられました。その後の授業参観でも、授業に取り組む意識の低い生徒がいるなど、校訓の「自立・自律」を取り違えているように思いました。3課程にそれぞれの副校長と教員がおられ施設も併用されているとのことですが、その組織体制と教職員の生徒指導への取組が適応しているかとの疑問も併せ持ちました。

教職員の方々が生徒の学力向上と学習意欲の向上に積極的に取り組んでいただくためにも、例えば、3課程の併設を見直したり、老朽化した校舎の整備を進めるなど、教育をする側と受け皿を作る側が一体となって生徒たちにより良い環境を作り、支えていっていただきたいと考えます。

厳しいことばかりになりましたが、学校内でたくさんの生徒から元気な挨拶を受けて、何より気が和らぎました。

○ 6月9日(木)

## 府立学校スクールミーティング(府立朱雀高等学校)



### ○ 安藤 委員

史跡「二条城」の西隣に位置する歴史ある朱雀高校を訪問いたしました。

京都府で唯一全日制・定時制・通信制の3課程を併設している学校です。この高校では、長期欠席者を受け入れる「特別選抜制度」や、特別支援教育の研究指定校として、高等学校におけるインクルーシブ教育(生徒一人一人の教育的ニーズに対応できる教育)を目指し実践されています。

全日制の授業の一コマを拝見いたしました。少人数教室の編成の仕方に配慮したり、学びのペースに気を配ったりするなど、「わかる授業づくり」に様々な工夫が見られました。中には、政治に関するテーマについて「18歳選挙権」を前にした生徒たちが、グループで互いに意見を交わす様子も見られ、学年が上がるにつれて希望する進路への期待や意識も高く感じられました。

授業を拝見した後、それぞれの課程の保護者の方々や長年地域活動等で学校を支援してくださっている方々と懇談の場を持つことができました。

朱雀高校の特色でもある「個性が生きる自主活動」として、商店街でのボランティア活動や、近隣の小中学校との交流といった地域と繋がる取組の一例もご報告いただき、日々の学校生活や校外での活動の様子も伺うことができました。

生徒が輝く「自主活動」の背景には、親身に相談にのってくれる教員や保護者の応援、また部活動においては同窓会の支援もあり、積極的な活動のエネルギーになっていると感じました。しかし、一方で、地域住民からのご指摘の声や、老朽化が進んだ学校施設、3つの課程が混在する様々な課題などもあげられ、時代にあった「学びの環境」を整備していくことも必要だと感じました。

平成26年から府立高校特色化が進み、府立高校生の夢を叶える様々な事業が展開されています。自由な校風、個性が生きる教育はこの高校の最大の魅力であります。私は府立高校の魅力のひとつには地域性も必要だと考えています。単にその地域にあるということではなく、地域の一員と認められ、信頼される学校となっているかという視点はとても大切だと思います。

拝見した授業の中でも、一部分に学習規律や生活の乱れも見受けられました。いま一度、自由意識の再確認をし、自由の中にも規律や秩序といった朱雀ルールを確立していけるよう、課題や成果を点検していく必要があるのではないかと思います。